

和名：トウモロコシ葉枯細菌病菌

学名：*Clavibacter michiganensis* subsp. *nebraskensis*

英名：Goss's bacterial wilt and leaf blight

分布

米国

宿主植物

トウモロコシ

病原体

グラム陽性、好気性、多形性で鞭毛を持たず運動性はない。種子伝染性で罹病種子が第一次感染源となるとともに、収穫後のほ場に残されたトウモロコシの葉、茎、穂軸、切り株などで越冬し、これらが翌春の第一次感染源となる。風などで伝搬することにより感染が拡大する。特に風で飛ばされた細砂、強風などにより葉や茎などが傷つくと感染が助長される。

病徴及び被害

トウモロコシの葉脈に沿った不連続の水浸状斑が現れ、黄緑色から濃緑色に変化する。やがて病斑が融合拡大し、葉縁は激しく波打つようになり、葉の先端から基部にわたり褐色から灰色の条斑になる（図）。この条斑の上に細菌泥の漏出が生じ、これが乾燥して水晶のように輝いて見えることもある。病徴が進むと全体の葉が枯れ上がり枯死する。生育初期に感染した株は全身が萎ちようし、生育不良となり枯死する。感染した植物の茎を切断すると維管束部の変色が認められ、切り口からオレンジ色の細菌泥の漏出が観察される。



図 トウモロコシの症状